府中市健康地域づくり審議会第21回長寿サポート分科会 報告書

○日 時：令和元年10月2日（水）19時から20時30分

○場 所：市役所2階第一応接室

○出席者：今 川 智 巳（分科会会長） 田 中 玲 子（分科会副会長）
 佐 野 敏 明（分科会委員） 多 田 敦 彦（分科会委員）
 小 林 弘 治（分科会委員） 藤 原 洋 子（分科会委員）
 宮 後 志 保 美（分科会委員）

○事務局：唐川平健康福祉部長

 山路英利介護保険課長

 石口由美介護保険課係長

 杉原裕二医療政策課係長

○協議事項

(1) 長寿サポート分科会の活動について

① 令和元年度分科会の施策の進捗状況

- ・高齢者の在宅生活を支える仕組みづくり
- ・人材育成の支援と在宅での看取り促進に資する住民啓発
- ・「支える医療」の中核づくり
- ・今後、新たに有効と考えられる施策

② 令和2年度分科会の施策の方向性

(2) 府中市地域包括支援センターの運営について

① 令和元年度指定介護予防支援・介護予防マネジメントの一部を委託する
居宅介護支援事業所について

② 平成30年度地域包括支援センター運営状況について

(3) 第8期介護保険事業計画について

① 第8期介護保険事業計画の作成に向けたスケジュール

② 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

○主な意見

(1) 長寿サポート分科会の活動について

① 高齢者の在宅生活を支える仕組みづくり

- ・生活支援コーディネーターの任務について、内容が分かりにくく、何から手をつけていけば分からない。行政からの助言もなく、相談相手もおらず、孤立した状況

であるということ。

(行政から今後の対応について)

行政と生活支援コーディネーターの役割を明確にし、目標を共有すること。

アドバイザーや先進事例の活用を検討する。

・生活支援について、コーディネートしようにも解決方法がないのでは。有償ボランティアなどの仕組みがないと難しいと思われるが、仕組みは行政でないと作れない。

②人材育成の支援と在宅での看取り促進に資する住民啓発

・ACPについて、一定の年齢に到達したら書いてもらうという取り組みが効果的ではないか。

・在宅看取りに関して、医療機関の訪問診療は一杯一杯な状況。入院の受け入れについては、可能な状況である。

③今後、新たに有効と考えられる施策

・もりもり体操を継続して、行っていくことが難しいので、工夫が必要である。

(行政から今後の対応について)

北部圏域では、リーダー会がなく、リーダーさんを支援する仕組みを検討する。

・認知症施策について、関係者や専門職のみならず、若い方とか幅広い層に啓発していく必要がある。

(2) 府中市地域包括支援センターの運営について

①令和元年度指定介護予防支援・介護予防マネジメントの一部を委託する居宅介護支援事業所について（協議）

②平成30年度地域包括支援センター運営状況について（報告）

○ 特に意見はなし。

(3) 第8期介護保険事業計画について

① 第8期介護保険事業計画の作成に向けたスケジュール

② 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

○ 特に意見はなし。